

今月の技術対策 (水稻編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp



畑作・園芸編も
HPで公開中!

1 地域の生育状況 (普及センター調べ)

6月15日時点で、うるち・もちともに2日早く、生育が進んでいます。茎数は、うるち・もちともに平年対比145%となっています。

表1 6月15日の稲の生育状況(うるち：成苗ななつぼし、もち：中苗風の子もち)

		草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎数 (本/m ²)	生育 遅速	分けつ 始	幼穂 形成期	止葉期	出穂期
うるち	本年	32.2	7.7	357	+2	6月1日	6月26日		
	昨年	35.6	7.5	318		6月3日	6月26日	7月13日	7月22日
	平年	34.0	7.3	247		6月3日	6月28日	7月16日	7月27日
もち	本年	26.7	6.1	242	+2	6月8日	(7月2日)		
	昨年	24.4	5.8	256		6月10日	7月2日	7月17日	7月26日
	平年	25.3	5.8	167		6月10日	7月4日	7月21日	8月2日

※出穂期：全茎数の40~50%が出穂した日 もちの幼穂形成期は見込み

2 7月は不稔防止の深水管理を!

深水管理は一日では出来ません。徐々に深水にして(図1参照)、前歴期間にしっかりと花粉を増殖させて、冷害危険期に花粉の充実を図って、稔実歩合を高めましょう。

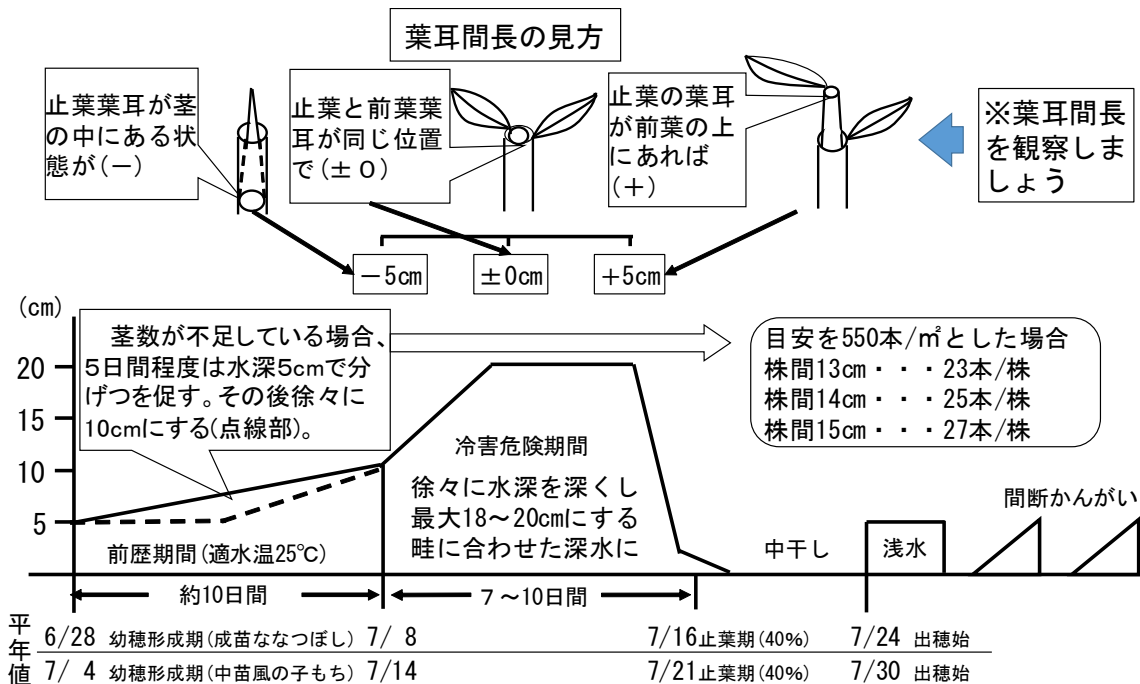


図1 平年の幼穂形成期から想定される水管理めやす

(1) 入水のポイント ～1日1cmをめどに徐々に深水を～

入水は、用水温と水田水温の差が少ない夜間～早朝に行いましょう。

(2) 冷害危険期の終了 ～穂が出るまでに中干しを実施～

80%の茎の止葉葉耳が+5cmになったら冷害危険期の終了です。出穂始までの間に中干しを行って根に酸素を供給しましょう（溝切りを併用すると効率アップ!）。この時期の中干しは地表面を固めて倒伏防止にもつながります。出穂始になったら入水しましょう。

3 病虫害発生予察をしっかりと行いましょう

【いもち病】～日射量は平年並みまたは少ない、降水量は平年並みまたは多い予報です～

(1) 初発の確認

日照が少なく雨が多い気象条件や、夜温が高い日が続くと発生しやすくなります。また、BLASTAM(ブラスタム)を初発時期の予測に活用しましょう。6月26日から28日にかけて準好適条件となっています。



BLASTAM情報

(2) 見歩き調査の実施

「過去に発生した水田」や「復元田や葉色が濃いところ」「沢地や建物の陰など風当たりの弱いところ」で発生しやすいので、しっかりと調査しましょう。

※いもち病の発生が見られた場合は、早急な防除対応が必要となりますのでJAまたは普及センターまで連絡してください。

【アカヒゲホソミドリカスミカメ(カメムシ)】～平年より早い発生が予想されます～

(1) 畦畔雑草の処理

稲の出穂までに草刈りを行い、畦畔の生息密度を下げ水田への侵入を防止しましょう。草刈りは出穂始までに終わらせるのがポイントです。

(2) 基幹防除の実施

被害粒（斑点米）の発生を防止するため、**基幹防除(出穂期と出穂期から7日後)**は必ず実施しましょう。基幹防除の5日後にすくい取り調査(20回振り)を行い、カメムシの頭数が**1頭以上**の場合は追加防除の検討も必要です。



～ 畦草刈りは事故多発！ 防護対策はしっかり！ 傾斜では足元に注意！ ～